

ETTO

#014

2020 Winter

【えっと】

広島県



医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン



特集 広島県 × 広島大学「地域医療システム学講座」

地域医療にかける思い

～ 地域を支えるふるさと卒出身医師の今 ～

広島県地域医療支援センター（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）が発行する、
医学生・研修医・若手医師に広島県の医療をPRするための広報冊子です。

今号では、広島県の地域医療を支える医師の育成を目的とした、
広島県と広島大学が共同で開設した「地域医療システム学講座」に密着して、
同講座の取り組みや「ふるさと卒」制度について、

また実際に地域を支える医療現場で活躍するふるさと卒出身の医師に、
日々の診療やそれぞれの役割、地域医療にかける思いなどについて語っていただきました。





地域医療システム学講座
教授

松本 正俊 先生

Masatoshi Matsumoto

広島県出身
広島大学卒業（1996年）

地域医療システム学講座
講師

石田 亮子 先生

Ryoko Ishida

広島県出身
山口大学卒業（1998年）



地域医療システム学講座
助教

吉田 秀平 先生

Shuhei Yoshida

広島県出身
日本医科大学卒業（2011年）



編集制作

【民間医局】株式会社メディカル・プリンスビル社

Art Director: 勝又シゲカズ

Writer: 安藤梢
Photographer: 伊東昌信

広島のこれからの医療を支える
地域で活躍する人材を育成

広島大学地域医療システム学講座

国内で2番目に多い無医地区を抱える広島県。2006年に行われた厚労省の調査では、人口あたりの医師数が全国で唯一減少した県として注目され、医師不足の解消は県を挙げて取り組むべき課題となっていた。そうした背景を受けて、2010年に広島県と広島大学が共同で開設したのが「地域医療システム学講座」である。



ふるさと卒とは

将来、広島県の医療を担う人材を、広島県と広島大学が連携して育成していくことを目的とした広島大学医学部医学科推薦入学制度。ふるさと卒入学者全員に対して、広島県が修学に必要な資金（奨学金）を6年間貸与する。大学卒業後から一定の期間、県内の地域医療を守るための指定医療機関で勤務することが義務となっており、その履行により奨学金の返還は全額免除となる。

医師不足の解消を目指して 教育に力を注ぐ

地域医療システム学講座では、①地域医療を担う人材の教育、②地域医療課題の調査研究、③地域医療を支える仕組みづくり、の3つを大きな柱として取り組んでいる。

「広島県の医師不足は非常に深刻で、特に中山間地の医療は崩壊寸前の状態でした。解決に向けては人材育成が欠かせません。講座開設の前年から導入されたふるさと卒制度の運営と、地域医療を担う人材の育成に取り組む部門として、当講座はスタートしました」

そう話すのは、講座を主導する松本正俊先生。開設から間もなく10年を迎える現在、地域医療の現場ではこれまで同講座がサポートしてきた、ふるさと卒出身の若手の医師たちが活躍している。

地域医療を担う人材育成のための制度として導入されたふるさと卒では、2009年の開始から現在まで68名の卒業生を輩出している。現在、臨床研修を終了した33名が県内各地で勤務し、そ



ランチ面談

ふるさと卒の1、4年生全員に実施されるランチ面談で、学業や学生生活についての悩みを相談。6年生を対象にした個別面談では、研修病院の選び方やその後の進路など、具体的な相談にも応じているほか、同講座が作成した「ふるさと卒キャリアプラン」をもとに、専門医資格の取得など診療科ごとのキャリアがイメージできるよう指導している。

ふるさとセミナー 通称「ふるセミ」

地域医療について勉強したり、互いに交流を深めるために、定期的に行われるランチョンセミナー。



のうち17名が医師不足が深刻な中山間地の医療機関に赴任。広島大学には各学年18名の学生が在籍しており、地域医療システム学講座が年間を通してさまざまな支援を行っている。

「ふるさと卒の学生たちには、6年間を通して『地域医療に貢献したい』という意欲を持ち続けてもらうことが重要です。そうした『地域医療マインド』の醸成を目指し、学年の垣根を越えた交流で一体感を味わえるようにしています」（松本先生）

学生同士の交流を通して 『地域医療マインド』を育む

ふるさと卒の学生に対して、1年次から実施する夏・春の地域医療セミナーでは、1〜2泊で中山間地の病院での医療現場を体験できるほか、冬合宿ではレクリエーションやグループ

ワークを実施。また、毎週水曜日に開催される「ふるさとセミナー（通称ふるセミ）」では、1〜4年生が全員集まりミーティングを行っている。救急対応のシミュレーションや臨床知識のミニ講座など、実践的な講習もある。学生たちの指導にあたる石田亮子先生は、「ふるセミは、学生同士が交流を深める場。スムーズに連絡を取り合いたいという学生たちからの要望に応えるため、最近では講座公式のLINEアカウントも開設しました。今の学生たちがどのようなことを求めているのか、ニーズに合わせてサポートしていきたい」と話す。

早い段階から医療現場を体験し、地域医療に携わる先輩医師たちと交流することで、着実に『地域医療マインド』が育まれている。ふるさと卒の学生の医師国家試験合格率は95・8%（2015年〜2019年）で、医学部全体の合格率を上回っているのもその成果だろう。中山間地の病院からは「ふるさと卒の医師が来たことで病院が活気づいた」という嬉しい反響がある一方で、まだ配置が進んでいない病院からは待ち望む声が続いているようだ。

「地域医療に興味を持つ学生を育てていくことで、いずれはすべての地域の医師不足が解消できるはず。広島県の医療に長く貢献したい、医師不足に困っている地域での医療に関心があるという高校生には、ぜひふるさと卒を目指してほしい。医師としてのキャリアを発展させながら、しっかりサポートしていく体制を整えています」（松本先生）

現場を体験できる学生実習で 地域医療の魅力伝える

地域医療システム学講座では、一般医学生に対する教育にも力を入れている。5年生が全員参加する地域医療実習では、中山間地の病院で地域医療の現場を体験できる4泊5日のプログラムを実施。実習の最終日には講座のスタッフが現地に赴き、外来実習と1週間の振り返りを行っている。

「実習では外来患者さんと接する経験の少ない学生がほとんどなので、症状を的確に聞き出せるような問診の仕方や、診療するうえで基本的な医学の知識を指導します」そう話すのは、自身も総合診療医として臨床に携わる吉田秀平先生。OSCE（客観的臨床能力試験）の対策がきちんとできているかをチェックするなど、きめ細かく学生の指導にあたる。地域医療の現場で求められるのは、どのような能力だろうか。

「診療では、まずは幅広い疾患に対応できる能力です。その上で患者さんのニーズに合わせて状況に応じた判断をしていくこと。看護師や介護スタッフ、ご家族とのコミュニケーション能力も必要です」（吉田先生）

「疾患だけを見るのではなく、患者さんの生活や背景を受け止めてあげることが大切。中山間地の医療機関には機器が揃っていないところもあるので、検査データに頼らない五感を使った診察能力も求められます」（石田先生）

実習を通して「一人でも多くの学生に地域医療に興味を持ってもらいたい」というのが、講座スタッフたちの願いだ。

「一人の患者さんと深く向き合う中山間地での診療は、医師として成長できる貴重な経験になります。ぜひ多くの人に地域医療の魅力を知っていただき、積極的に関わってもらいたい。その機会を提供するのが私たちの役割だと考えています」（松本先生）



広島大学

地域医療システム学講座

〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3
TEL: 082-257-5894 FAX: 082-257-5895
E-mail: tiikisis@hiroshima-u.ac.jp



<https://cbms.hiroshima-u.ac.jp>

中山間地の病院で活躍する

「ふるさと卒」の医師たち

庄原赤十字病院

庄原市で唯一の総合病院として、救急医療を一手に引き受ける庄原赤十字病院。

年間8,000件以上の救急患者に対応しながら、

回復期から慢性期、訪問看護ステーションと連携した在宅医療まで、

地域医療の要として住民たちの健康を支えている。

そこには、ふるさと卒出身の医師たちが活躍する姿があった。

救急から訪問診療まで
一貫して患者を診る

中島：服部先生は当院に赴任して2年、小澤先生は半年が経ちましたが、ここの診療はいかがですか？

服部：救急や病棟で担当していた患者さんを、そのまま外来や往診でも診られるのでやりがいがあります。急性期から在宅まで続けて担当するのはとても珍しいと思います。

中島：当院では、担当していた患者さんが訪問診療を希望された場合や開業医院での診療が難しい場合などは、主治医が継続して診ていくスタイルをとっていますからね。

服部：入院していた患者さんが自宅に戻るときに、「また外来でお会いしましょう」と言えるのが嬉しいです。患者さんとの距離感も近くなります。

小澤：私はまだ往診はしていませんが、一人の患者さんやご家族と長く接す

院長

中島 浩一郎 先生

Koichiro Nakashima

広島県出身

広島大学卒業（1979年）



内科・専攻医2年目

服部 彩佳 先生

Ayaka Hattori

広島県出身

広島大学卒業（2016年）



ることで信頼関係が築けるので、治療方針について話しやすいと感じています。

中島：救急で運ばれてきた患者さんが退院後にどのような生活をしていくのか、在宅復帰に向けてどのような問題があるのか、救急医療だけに関わっているのはなかなか分かりません。一貫した診療を通して実際にその経過をたどることができるのは、医師として貴重な経験ではないでしょうか。

小澤：広島市内の大きな病院で初期研修をしていたときには、急性期治療をメインに勉強させてもらっていたので、ここに来て慢性期の患者さんを診療するようになって、はじめて分かることも多かったです。

中島：若いうちに大切なのは難しい症例をいくつ経験したかではなく、一人ひとりの患者さんとかに向き合うかということ。その経験が医師としての大きな土台になるのです。



内科・専攻医1年目

小澤 久美子 先生

Kumiko Ozawa

広島県出身

広島大学卒業（2017年）



移動診療車

週2回、無医地区を巡回している。超音波画像診断装置、心電図、血液分析装置、生体モニターなどの医療機器が搭載されているので、病院と同程度の診察が可能。医師1人の他に看護師、薬剤師、検査技師など多職種チームで診療にあたる。



移動診療車



巡回診療

ところで、お二人はふるさと枠出身の医師として、もともと地域医療に興味を持っていましたよね。

服部：私は東広島市の志和町の出身なのですが、近くには診療所がいくつかあるだけで、大きな病院までは車で30分以上かかる地域。医師だった両親は患者さんからお手紙をいただくことも多く、そうしたやりとりを見るうちに地域医療に携わりたいという気持ちが湧きました。

小澤：私は三次に住む親戚から「病院が少ない」「産婦人科の医師がいない」という話をよく聞いていたので、広島県で働くなら医師不足が深刻な地域でと思っていました。

中島：庄原市は高齢率がすでに40%を超えており、県内でも将来を先取りしている地域だと言えます。10年、20年後には、広島市内も高齢化がさらに進み、今の庄原市と近い状況になるで

しょう。当院で実践している地域医療をしっかりと学んでおくことは、必ず今後の役に立つと思います。

服部：ふるさと枠では1年生から中山間の病院や診療所での実習があり、早い段階から地域医療の現場を見ることでできたのは大きかったです。一生懸命働いている先生たちの姿を見て、「やりがいがあるだろうな」と。

小澤：実際に病院に行ってみると、将来的に自分ができるような診療をしていくのか、具体的にイメージできますよね。私は5年生の地域医療実習でここに来たのですが、看護実習を通して「看護師さんの仕事はこんなに大変なんだ……」と実感したのが良い経験でした。

専門性を高めながら 医師としての基礎を学ぶ

服部：私は消化器内科が専門ですが、専門性を持ちながらも幅広く診られる医師になりたいと思っています。その点、ここではさまざまな疾患に対応できるので力がつきます。

中島：当院は中山間地の病院ですが、高度な医療を提供しているのが特徴。例えば消化器外科では、食道の専門医などを大学から招き、毎月のように専門的な手術をしてもらっています。外科でしっかりと対応できることが、内科診療の充実にもつながっています。

服部：救急外来では内科も外科もすべて診ますから、簡単な縫合などの外科的な処置もできるようにありますし、



服部：投薬治療などで継続して診ている患者さんが多いけれど、ときどき、飛び込みで体調の悪い患者さんもうらっしゃるよね。

小澤：そうなんです。すぐに誰かに相談できる環境ではないので、自分がしっかりと診ないといけない、という気持ちで臨みました。

服部：患者さんのちょっとした変化に気づけたり、ご家族と話したりもできる。移動診療車を楽しみに待っていてくれる方もいて、嬉しいよね。

小澤：病院での診療だけでは分からない、患者さんの生活の様子が見えるようになりまして。

脳梗塞などの専門外の分野でも初療に携わることができません。やらなくてもよい環境にいればなかなか手を出せないと思います。ここでは必要に迫られるので必死で勉強しています。

小澤：移動診療車での診療もとても勉強になっていきます。4月に初めて一人で行ったときは緊張しました。

中島：中山間地の病院では十分な勉強ができません、成長ができませんといったことは決してありません。お二人ともここでの診療を通して、医師としての基礎となるスキルを確実に身につける志を持ち続けながら、自信を持って学び続けてください。



日本赤十字社

庄原赤十字病院

〒727-0013

広島県庄原市西本町2-7-10

TEL: 0824-72-3111

FAX: 0824-72-3576

E-mail: soumu@shobara.jrc.or.jp

Hospital Director:

中島 浩一郎

■ 病床数: 300床



<http://www.shobara.jrc.or.jp>



病理診断医という立場から 県全体の医療を支える

広島大学病院 病理診断科 神原 貴大 先生 Takahiro Kambara
広島県出身 / 広島大学卒業 (2016年)

広島県で特に専門医が少ない病理診断科。
県全体の医療を支える重要な役割を果たす病理医として、
日々の業務に力を注ぐ神原貴大先生に、
やりがいや地域医療にかける思いを伺いました。

私も日々、病理専攻医として上級医の指導を受けながら、一つひとつの診断を確実にしているところです。症例を積み重ね、自分の診断の確かさが向上していることを、ふと実感できる瞬間はとても嬉しいです。

病理医として働き始めて感じることは、病理診断の責任の重さと、想像以上に人手が足りていないということだと思います。広島県における病理医の数は対人口比で全国45位と低く、常勤医がいる病院はわずか20施設ほどです。特に中山間地の病院や診療所のほとんどは常勤の病理医がいらないため、そこでの検査に病理診断が必要な場合、広島大学のスタッフがさまざまな形で対応しています。そのため、日々の業務を通して

「自分も広島県の医療を支える、その一端を担っているんだ」と感じられ、やりがいに繋がっています。実際に中山間地の病院で勤務するわけではありませんが、ふるさと卒の卒業生として、病理医という立場から県全体の医療に携わることも、地域医療に貢献する上で大事な役割だと考えています。また、病理診断依頼書の担当医の欄には、ふるさと卒や同期など見知った名前を見ることが多く、そういう時は「みんな頑張っているんだな」と励まされます。

ある意味、病理診断科が一番人と人との繋がりが感じられる診療科なのかもしれません。

病理の世界も他の診療科と同じように多様化、高度化が進んでおり、今後はさらに幅広い知見や多角的な視点が求

められるでしょう。それに伴って、病理医の需要も一層高まると予想されます。病理医は一つの物事を突き詰めます。タイプの人に特に向いていると思いますが、比較的時間の調整がしやすい診療科なので、自分の生活を大事にしたい人にもおすすめです。私の妻も常勤でまだ小さい子どもが二人いますが、周囲の理解もあり、私も子育てに積極的に関わることができています。

病理医は求められています。より多くの医学生や研修医の皆さんに、病理医に興味を持っていただけると嬉しいです。

最近ではドラマや漫画で取り上げられることもある病理医ですが、私が医師を志した頃はまだ認知度も低く、あまり知られていませんでした。私自身、ふるさと卒生として大学に入学してから、セミナーや実習を通して「ふるさと卒で知事指定診療科に指定され特に求められている」という実状を意識し、病理医に興味を持ちはじめました。

病理医の仕事は主に、①病理診断、②病理解剖、③病気の本質と向き合う研究、の3つからなります。3つとも医療の中で欠かせない、興味の尽きない内容です。例えば病理診断では、いろいろな臓器や疾患に触れることで改めて人体の奥深さを感じられ、また病気の成り立ちについてもより深く勉強できます。



患者の病変から採取した細胞・組織をスライドに見ながら診断する。



広島大学病院 病理診断科

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/sinryoka/chuoshinryo/byori>



生活に密着した医療で 患者の人生に寄り添う

庄原市立西城市民病院 総合診療科 **脇本 旭** 先生 Asahi Wakimoto
広島県出身 / 広島大学卒業 (2015年)

“かかりつけ病院”として地域住民から親しまれる西城市民病院。
ふるさと卒出身の医師として赴任した脇本旭先生に、
中山間地の病院ならではの温かな診療について話を伺いました。

私が地域医療に興味を持ったのは、
中学3年生の時。担任の先生から紹介
された『Dr.ジチ』という、自治医科大学
卒業の先生方のエッセイ本がきっかけ
です。地域医療に携わる医師たちの働
き方を知り、人の生老病死に関わる仕
事がしたいと思ったことが、今につな
がっています。当時、導入されたばかり
のふるさと卒に応募し、1期生として
大学生活をスタート。ふるさと卒では、
セミナーや実習を通して地域医療に関
わる先生方と接する機会があり、実際
に診療の現場を見ることでモチベー
ションも上がりました。こうして中山
間地の病院に赴任してみると、当時お
世話になった先生方がたくさんいらっ
しゃるので、やりやすさを感じしていま
す。また、初期臨床研修先の広島大学病

院長メッセージ



庄原市立西城市民病院
院長

郷力 和明 先生

Kazuaki Goriki

当院では、外来・病棟での診療に加えて、
在宅や介護施設への往診、移動診療車など、
この地域で必要とされる医療に幅広く対応
することが求められています。医師が地域
に出て行き診療をする、町全体が一つの病
院のようなイメージです。脇本先生はそう
した当院が地域で担っている診療で、大い
に力を発揮してくれています。市民講座や
西城ふるさと祭りといったイベントで啓発
活動に取り組むなど、
若い先生の活躍する姿
は地域の皆さんにもと
ても喜ばれています。



院でさまざまな症例に触れた経験も、
現在の診療に役立っています。中山間
地の病院では希少疾患を診ることはあ
まりありませんが、そうした症例の診
療経験があるのとないのでは、判断
が変わってくるからです。
広島市内の病院に勤務していたとき
は、患者さん一人に割ける時間が少な
く、どうしても一週間の関係になって
しまうことがありましたが、西城市民病
院では患者さんとの距離感が近いので、
治した後にどのような生活を送られる
のかにも目が向きます。症例数は多くは
ありませんが、患者さんの人生に寄り添
う医療の実践という点では、ここで学ぶ
ことは多いと思っています。看取りをし
た患者さんご家族から「先生に最期まで
診てもらえてよかったです」と言ってい
ただいたときには、医師として大きなや
りがいを感じました。当院では末期が
んの患者さんの終末期ケアを引き受ける

こともあるのですが、「痛みを和らげな
がらこれからの生活を考えましようね」
と伝えると、それまで気を落とされてい
ても「頑張ります！」と表情が明るくな
ります。野菜を持ってきてくださる患者
さんがいたり、救急当番をしているとき
に顔見知りの患者さんが来たり、地域に
密着した病院ならではの体験もあります。
地域医療の現場を知るにつれて「もっ
と経験を積みたい」という思いは強く
なっています。この地で医療、介護、福
祉について学びながら、今後は都市部の
病院でより多くの症例の経験を積んで
いくことも必要だと考えています。そし
て、いずれはその経験を地域医療に還元
していきたい。中山間地と都市部では
まったく違う医療の形があります。もし
中山間地の医療に興味があれば、ぜひ一
度体験してみてください。行ってみない
れば分からない、地域医療の面白さが味
わえると思います。



庄原市立西城市民病院

http://saijyo-hospital.jp 〒729-5742 広島県庄原市西城町中野1339 TEL.0824-82-2611(代) FAX.0824-82-2012

高度医療から地域医療まで充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には24の臨床研修病院があり、環境も病院規模もさまざまです。

多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、

必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。



臨床研修病院合同説明会(レジナビフェア)などへの出展

広島県では、できるだけ多くの研修医に県内で臨床研修をしていただきたいと願っています。

県内の臨床研修病院が共同で、合同説明会「レジナビフェア」などに出席し、お揃いの真っ赤なベストで医学生の皆さんをお迎えしています。

充実した臨床研修を受けられる広島にぜひお越しください。



若手・女性・ベテランの活躍支援

県内で活躍する医師のためにさまざまな支援を行っています。

若手医師への医療機関の横断的な研修支援、女性医師への働きやすい勤務環境整備・復職研修支援・子育て支援、定年勤務医などへの求職支援など、やりがいを持って活躍できる環境づくりを進めています。



広島県での就業支援

広島県での就業をお考えの医師の方に、無料の職業紹介事業の許可を得て、UIJターンの支援をしています。

ウェブでの求人情報提供のほか、個別のご相談にも対応しています。医監や経験豊かなスタッフが在籍し、皆さまのご相談やご希望を伺っています。

具体的な時期が決まっていなくても構いません。お気軽にご相談ください。

地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター

広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保などのため、平成23年7月に設置された公的団体です。

わたしたちは広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解消のため、配置調整や医師確保、人材育成など総合的に取り組んでいます。

【お問い合わせ】

広島県地域医療支援センター

(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

〒732-0057

広島市東区二葉の里三丁目2-3

広島県医師会館4階

TEL: 082-569-6491

FAX: 082-569-6492

E-Mail: iryou@hiroshima-hm.or.jp

<http://www.dn-hiroshima.jp>

